三千餘騎を引率して。坂本の城をうち發。白毛馬をのりて都へ入らんと西北の方を南へ遁まく。依俄の釋迦堂の前より到り。此みて諸士よ告ていふやう。我が新しき願ひありて。愛宕山へ詣し。今宵は通夜して明朝。丹波の國へ赴く筈なれば。汝ら供奉はいとまこひせよ。光秀ひとり途を急ぎ。疾く愛宕山へ登り。脇の武士八九人を伴ひて。愛宕山へ攀ぢ登る。神前へ額ひき。丹精を凝して屢祈誓をこめ。通夜まゐらせんとまゐりしく行ふ。偖。備吾大望成就せることを。ひとり心の内にて歡喜し。ひそかに。光秀ひとりうち歎息し。中國出勢の事を。通夜まゐらせんとまゐりしみまゐらせんとまゐりし。再び驛を挾けり。と神前を拜する事一番。終に。西の房威徳院行祐が許より旅宿せられ。日來懇める連歌の達人なれば。遠遠ふ堪能なる。紹巴法橋。昌叱法橋心前法師。兼如法師。大若院宥源倘。此ふ僕とて助勢しける甚數旬ふ。

時を今始めがたしとする水上清き庭前あり。其水に映る池水を硯とあて。風を飛雲とおくる蒼天を紙とあて。うつくしく神もひりあけれ。うつ枯よりある草木を筆として雲なれふうる雲色の粧出。秋を染ぐ深き雪れ色の尾上の朝氣タぐれの景色ふ面十句ふり。表の句ふ此ふ略そ。各中光秀の句十六韻ふり。各殘の

光秀
行祐
紹巴
宥源
昌叱
心前
兼如
行澄
光秀